

兵 小 長

報 会

兵小長

第 168 号

令和8年2月28日
兵 庫 県 会
小 学 校 長 会

組織の大切さをより感じた一年

笑顔あふれる元気な学校

会 長 赤 木 裕 之

「校長先生方、幸せですか。」
「学校は楽しいですか。」

兵小長は「笑顔あふれる元気な学校」を合言葉に、令和七年度の活動を進めてきました。今年度も残りわずかなってききましたが、一年間、校長会を支えていただきました校長会役員の皆様をはじめ、県内すべての校長先生方に心より感謝を申し上げます。

◆「近畿は一つ」

近小協研究大会兵庫大会の成功

今年度はなんとといっても、近小協研究大会兵庫大会の開催です。近畿の校長先生方、約一四〇〇名が、神戸コンベンションセンター（国際会議場・国際展示場）に参集して盛大に開催することができました。校長先生方にとって貴重な「学びの場」・「つながりの場」となり、研鑽を積むことができ、情報交換が進んだことも嬉しく思いました。そして、矢野燿大様からは、「子どもたちに生きる喜びと夢を育むリーダーのあり方」と題して、リーダーとして子どもたちに伝えるべきこと等について、熱いメッセージをいただき、

さらに刺激を受けました。この研究会の準備と運営にご尽力いただきました皆様、ありがとうございます。

◆全連小との連携・組織の大切さ

今年度、私は兵庫県の会長として、近畿ブロックの代表（兵庫県と京都府とで二年交代）という立場で常任理事を務め、常任理事会に一年間参加してきました。全連小の活動には、文部科学省や国会議員等に要望書や意見書を提出するということがあります。今年度は、文部科学審議官が直々に執務室に通してくださり、少しの時間でしたが懇談することもできました。まさに、現場の生の声を直接届けることができ、とても意義深かったと感じています。東京等で行われている対策部会や調査研究部会等の会議も、全国から校長が集まり、全連小が実施する調査の結果を有効に活用して話し合いが行われました。校長先生方には、様々なアンケートや文書作成等にご協力いただき、ありがとうございます。常任理事として活動することで、現場の声を国に届けるためには、全連小の活動が

とても重要だということがわかりました。改めて、全連小の会員数（全国約一万八〇〇〇人の校長）の数の力を感じると同時に、全連小や各都道府県校長会の組織の大切さを痛感しました。

からの発展を願っています。

◆「ともに進める・学び続ける」

声をお届ける「兵小長」
令和七年度の教育界の動向を振り返ると、改正給特法が成立し、約五〇年ぶりに教職調整額が引き上げられました。「三分類」も新しくなり、国会では働き方改革等も審議され加速化されています。基礎定数の改善を求め、全国道府県教育委員会連合会は、教育予算の充実を求める要望書を文科省に提出されました。着実に私たちの声が届き、国に働きかけています。

兵小長活動記録(抄)

一方、中央教育審議会では、次期学習指導要領の議論が開始され、改訂の基本方針①「主体的・対話的で深い学び」の実装、②多様性の包摂、③実現可能性の確保、の三つの方向性が示されました。標準授業時数を弾力的に扱える「調整授業時数制度」の導入も提案され、柔軟な教育課程の在り方として、教師の「余白」を生み出し、学校が特色ある教育課程を編成できるよう裁量を拡大することなども議論されています。益々、校長のリーダーシップが重要となっています。これからも、校長として一層学び続け、七三四名の校長とともに、明確なビジョンのもと、リーダーシップを発揮し、学校運営を進めていかなければいけません。

- 一・一八 理事・地区長会① 代表者会
- 二・二八 近小協実行委員会①
- 三・二 理事・地区長会②
- 四・二 合同委員会・各委員会
- 五・八 近小協理事会①(兵庫)
- 六・一五 兵小長総会・研修会(姫路)
- 七・二三 全連小総会・研修会
- 八・二七 あり方検討委員会①
- 九・一〇 教育懇談会準備委員会①
- 一〇・一〇 近小協実行委員会②
- 一一・三六 理事・地区長会③(丹波)
- 一二・三六 教育懇談会準備委員会②
- 一三・一〇 私学連合会との連絡協議会
- 一四・一〇 近小実行委員会②
- 一五・一〇 近小実行委員会②
- 一六・二八 教育懇談会準備委員会③
- 一七・五 近小協理事会②(兵庫)
- 一八・七 理事・地区長会④
- 一九・一九 近小協研究大会・兵庫大会
- 二〇・一一 あり方検討委員会②
- 二一・二二 あり方検討委員会③
- 二二・二七 全連小全国大会(福岡)
- 二三・二七 県教委との教育懇談会②
- 二四・二七 理事・地区長会⑤
- 二五・二二 近小協理事会③(兵庫)
- 二六・一八 活動方針案検討委員会①
- 二七・一九 活動方針案検討委員会②
- 二八・三〇 理事・地区長会⑥
- 二九・二六 近小協理事会④(京都)
- 三〇・二〇 理事・地区長会⑦

(神戸市立成徳小学校校長)

令和七年度

県教委との教育懇談会報告

事務局長 山田 知之

「令和の日本型教育」の一層の構築や、県小学校長会の活動方針である「生きる喜びと夢をもち 在りたい未来とともに創る子どもの育成」の実現に向け、県教委と連携を図っていくことは、より重要性を増してきています。各地区・各支部から集約された意見をもとに県小学校長会が資料を作成し、年二回の教育懇談会を実施して、意見交換が行われました。

【第一回教育懇談会までの経過】

◇四月十八日

第一回理事・地区長会

・教育懇談会に向けての事務連絡

◇五月二日

第二回理事・地区長会

合同委員会・各委員会

・教育懇談会に係る日程等の説明

◇五月二十七日

第一回教育懇談会準備委員会

・調査項目の検討

◇六月二十六日・二十七日

第三回理事・地区長会

第二回教育懇談会準備委員会

・調査項目確定、全支部への意見集約依頼

◇七月二十八日

第三回教育懇談会準備委員会

・教育懇談会資料の確定、役割分担

【第一回教育懇談会】

八月二十二日(学校厚生会館)

校長会は、会長以下理事・地区長・教育懇談会準備委員・へき地教育代表の計二二名、県教委は大久保教育次長をはじめ関係各課計二二名が出席した。重点的

にお願いしたい内容を中心に説明した。簡単な質疑応答及び懇談

【第二回教育懇談会】

十月二十七日(学校厚生会館)

校長会は、会長以下、理事・地区長・監事・教育懇談会準備委員・へき地教育代表の計三三名、県教委は秋田義務教育課長をはじめ関係各課の計二一名が出席

第一回教育懇談会において、お願いした内容への県教委からの説明の後、質疑応答及び懇談

『県教委からの説明内容』

一 きめ細かな教育活動の推進

○学校の実情に応じた兵庫型学習システム推進教員の弾力的運用

・今年度から小学校の教科担任制を第四学年にも拡大した。少人数授業は教科担任加配へ移行したため、他の加配を活用して実施している。

・加配の資格要件には研究会活動や実績等を新たに追加し、学校の実情に応じて柔軟に運用できるようにした。

・国の動向を注視し、他学年・他教科への拡大や加配教員の柔軟な運用について検討・要望していく。

○基礎定数の改善及びフルタイム加配教員の増員

・フルタイム加配教員については、国の加配定数を最大限効果的に活用するため、学校規模等にに応じて常勤・会計年度職員を配置している。

・各学校の実情の把握に努めているが、加配定数に限りがあるためすべての要望に応えることは困難な状況にあるこ

とはご理解いただきたい。
さらなる教職員定数の改善を図るよう、引き続き国に強く要望していく。

○通級指導の充実、特支加配の拡充

・通級指導担当の「学校生活支援教員」を三九七人配置。(昨年比六八人増)

・特別支援学級の学級編成基準があるが、県独自で五人以上在籍する特別支援学級が複数ある学校の一部に、「特別支援学級加配」を配置している。

・定数措置の改善について、引き続き国に強く要望していく。

○児童生徒支援担当教員の措置の充実

・各市町組合教育委員会等と連携を図り各校の実態に即して配置している。

・各校で特別の教育課程による日本語指導を積極的に計画・実施していただきたい。それをもとに今年度も加配数の増加を国に強く要望していく。

二 兵庫の教育を担う人材の確保と育成

○管理職及び教職員の待遇改善

・管理職手当の減額措置については令和六年度をもって解消した。

・管理職手当については、小学校において大規模校等には、校長、教頭ともに月額約一百万円の引き上げを実施。加えて、全教頭に月額約一〇〇〇円の引き上げを実施している。

・六月に法令改正が行われ、教職調整額の引き上げや学級担任への加配措置が示された。給料表による管理職への加算も計上されている。

○教師が担う業務の明確化・適正化

・県内共通の目標設定や業務の三分類を含む「全県共通取組」を策定し、各校に勤務時間の縮減や共通取組の徹底に向けて取り組むよう通知した。

・業務の三分類や外部機関への業務移管、閉庁日の設定など、県の取組や計画案

を市町教育委員会へ共有することで、情報提供を行い、関係機関との連携を一層図っていく。

三 実効性のある働き方改革の推進

○自然学校の弾力的実施について

・アンケートの結果、児童の約八割、保護者の約七割が「四泊五日以上」を希望し、宿泊最終日に成長を実感する児童が多いことが明らかになった。

・人材バンクの活用、啓発動画の作成、外部人材の配置補助事業などを実施

・来年度は市町の予算確保にも改善が見込まれるため、校長会からも市町に補助金活用を促していただきたい。

・今後も市町と連携し、学校の負担軽減と予算確保に努めていく。

四 へき地教育の一層の振興

・複式学級システムの課題解消のための教員加配を実施している。

・指導体制の充実に向け、教職員定数や財源の支援拡充を国へ求めている。

五 その他

・担任手当については、他府県の動向等を確認しながら方針決定していく。

・再任用教諭の処遇改善については、県単独での改善は難しいが、学校現場の声を受け止め、県人事委員会が国への働きかけを継続していく。等。

【今後に向けて】

この二回の教育懇談会では、教職員の待遇改善や人材確保、自然学校のあり方等、多くの意見が出されました。我々校長会からの話に真摯に耳を傾けていただき、現場と共に進めていく思いで取り組んでいただいていることが実感できる懇談会となりました。これからも県教委と連携して、兵庫の教育の更なる充実に向け、取り組んでいきたいと願います。

(神戸市立長田南小学校長)

活動報告

この一年をふりかえって

経営委員会の活動報告

経営委員長 喜多川 昌之

経営委員会では、「全連小・兵小長の活動方針を踏まえ、教育諸課題の解決に向けた実践的研究を推進し、創意工夫した教育活動及び学校経営の実践交流（研修・情報交流）を通して、活力に満ちた魅力ある学校づくりに努める」ことを目標に一年間取り組んできました。

今年兵庫県は、阪神・淡路大震災から三〇年の節目を迎え、八月に神戸コンベンションセンター（神戸国際会議場・神戸国際展示場）において、第七九回近畿小学校長会協議会研究大会兵庫大会【兼第七六回兵小長研究大会（神戸大会）】を近畿二府四県から一四〇〇名を超える皆様の参加を得て、盛大に開催することができました。また十月には全連小研究大会（福岡大会）に参加しました。

近畿小学校長会協議会研究大会兵庫大会では、各本部支部の経営委員の皆様をはじめ、全県の校長先生方のご協力のもと、準備や運営においてきめ細やかなご配慮をいただきました。そのおかげでスムーズに進行ができました。また、五つの分科会に分かれて、各分科会二つの提案を協議し、活発な討議や情報交換が行われ、近畿の校長先生同士がつながりを深め、多くの学びを得ることが出来ました。そして、それぞれの分科会で課題とされたことについて、多くの示唆が得られたことは大きな成果でした。

最後になりますが、経営委員会の活動に多大なるご尽力をいただきました皆様に感謝申し上げますとともに、来年度の第七七回兵小長研究大会（但馬大会）が意義ある研究の場となるよう、引き続き委員の皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（川西市立北陵小学校長）

人給委員会の活動報告

人給委員会 山田 英樹

人給委員会は、全連小・兵小長の活動方針を踏まえ、学校経営組織の充実強化を期し、人材確保をはじめとする教育条件の整備及び教職員の処遇改善を柱として、働きがいのある元気な学校を目指して取り組んできました。また、全連小・近小協とも連携を図りながら、人事給与等に関する各種調査・研究活動及び研修活動を行いました。

一 兵小長関係

会員の皆様のご協力のもと、六月と十月の二回の調査を実施し、教職員の処遇や学校経営の状況を調査し、県教委との教育懇談会につなげました。今年度の研修として、県教委のご協力を得て、人事・給与に関する資料提供を行い、教員の処遇改善及び教職員の給与・休暇等制度について学ぶことができました。

二 近小協関係

近小協調査研究部会において、近畿二府四県の小学校長会から担当者を神戸にお招きし、人事給与等に関して情報交流を行い、「調査研究第六十四集」の編集及び発行を行いました。

近小協研究大会兵庫大会では、会員の皆様の協力のもと、運営部として全体会・分科会のスムーズな進行に努めました。

三 全連小関係

全連小対策担当者連絡協議会では、改正給特法を踏まえ、働き方改革や処遇改善、教員不足の状況と教員の量の確保等について、各地区の調査結果をもとに意見交流を行い、協議を深めました。今後人材不足が予想される中、人給委員会の役割もますます重要になってきます。引き続き委員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

（姫路市立助野小学校長）

調査広報委員会の活動報告

調査委員長 濱谷 達也

調査広報委員会では、調査活動（会員の実態把握に関するアンケート調査）と広報活動（会報「兵小長」等）を中心に取り組んでまいりました。各校長先生方には、大変お忙しい中ご対応いただきありがとうございます。また、本部調査広報委員並びに支部調査広報委員の皆様には、ご協力に感謝申し上げます。

一 兵小長関係

① 兵小長会員の实態把握に関するアンケート調査を実施し、その結果を教育懇談会準備委員会に提供しました。また、県下全八地区にもフイールドバックを行い、課題を共有しました。
② 会報「兵小長」一六七号・一六八号を発行し、会員・支部・地区の声を反映しながら、兵小長の活動状況をお伝えし、会員相互の連携強化に努めました。

③ 兵小長ホームページを更新し、各種情報を掲載しました。特に、第七六回近小協研究大会（兵庫大会）の開催を重点的に広報しました。
④ 転学児童に関する文書を発出し、正確かつ迅速な情報交換を依頼しました。

二 全連小関係

① 「小学校時報」四月・七月・十月・十二月号、「教育研究シリーズ」第六四集、「特色ある学校便覧」令和八・九年度版への寄稿を行いました。
② 全連小ホームページへの「特色ある学校紹介」に六校を推薦しました。

（明石市立大久保小学校長）

地区の動き

但馬地区だより

但馬地区長 梶原秀規

但馬地区小学校長会は、豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町の五市町、五四校（義務教育学校一校）で構成されています。

今年度は、「生きる喜びと夢を持ち在りたい未来を創る子どもの育成」をテーマに、但小長総会を開催し、今後の活動のあり方についての検討・改善を図るとともに、但馬の教育のさらなる充実に向けて心を一つに進むことを共有しました。今総会では、学校数減少に伴う香美支部・新温泉支部の統合について、検討されました。その結果、令和八年度より香美支部・新温泉支部を統合し、「美方支部」とすることが承認されました。

総会の後には、「これからの授業・校内研はどうあるべきか」但馬地域の未来を見据えてのテーマで大阪信愛学院大学教育学部講師兼神戸大学教育学部非常勤講師の村津啓太先生に講演をしていただき、全小学校長で研修を行いました。また、毎年秋には但小長経営研究大会を開催していますが、本年度は近畿小学校長協議会研究大会兵庫大会が神戸で行われたため、実施しませんでした。例年は、年に二回ですが、但馬地域の全小学校長が一堂に集まり、情報交換を行ったり、絆を深めたりする有意義な機会を持っています。

(朝来市立枚田小学校長)

丹波地区だより

丹波地区長 足立和宏

丹波地区小学校長会は、丹波篠山市（一五校）、丹波市（二〇校）の二支部三五校で構成されています。その内約七割が単学級の学校で、複式学級のある学校もあります。四季を通じてたくさんの味覚にあふれ自然豊かな丹波地区の魅力を活かした教育活動に各校工夫をこらしています。

今年度の総会・研修会は四月十六日に行いました。研修会では丹波教育事務所長田村純一所長様に「丹波地域の課題から見えてくる今後の管理職の在り方について」と題して講演いただきました。四月当初の多忙な中ではありますが、早くに三五名の校長先生方が一堂に会することで会員相互の連携が図りやすくなったと感じています。

七月二十三日実施の夏季研修会では、名古屋大学内田良教授に「学校事故・学校安全」についてご講演いただきました。内田教授のこれまでの緻密な事故検証を踏まえたご講演から、リスクを「見える化」することが最大の危機管理になることを再認識しました。

併せて地区役員等の選出について、現状に合わせた会則の改正を行いました。今後も「在りたい未来に向かって、ともに生きる喜びと豊かな社会を創る子どもの育成」をめざし、先行きが見通せない時代だからこそ、県小長並びに地区内で連携を図りながら、校長自らが元気で、主体的に学びながら日々の教育活動を推進して参ります。

(丹波市立竹山小学校長)

淡路地区だより

淡路地区長 堀川義民

淡路地区小学校長会は、三支部三九校で構成されています。地区全体としては、一五校の中学校とともに「全淡小中学校長会」を組織し、総会・研修会、研究大会、研修会という年三回の事業を通して、会員相互の連携を深めながら活動を進めています。

今年度は、総会・研修会を五月二十日に淡路市で開催しました。また、研究大会を十一月二十五日に洲本市で開催し、各市代表による学校経営発表を行いました。そして、鳴門教育大学教員養成DX推進機構長の藤村裕一氏を講師にお招きし、「子どもたちの将来を見据え、どのようにICTを活用するのか」と題して、ご講演をいただきました。さらに、研修会を一月二十三日に南あわじ市で開催し、学校経営上の課題とその解決に向けての実践を、分科会で交流しました。

時代の変化とともに、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。中でも、淡路地区では児童数の減少によって、全学年単学級の小学校が六割以上を占めており、今後の統廃合に向けた動きが注目されるところです。

これまでも、教育における不易を大切にするとともに、新たな時代に対応した淡路らしい確かな教育のあり方を求めて、小中で連携して実践と改革を進めて参りました。これからも、新たな教育課題に対して果敢に挑戦し、校長相互の資質向上を図り、学校経営のさらなる充実を努めて参ります。

(南あわじ市立北阿万小学校長)

神戸地区だより

神戸地区長 辻本美樹子

神戸地区小学校長会は、神戸市内の小学校一六一校と義務教育学校前期課程二校、特別支援学校三校の合計一六六校で構成される組織です。本年度も、昨年度に引き続き「子供をまんなかに」という合言葉を掲げ、自分も他者も大切にし、夢をもち、未来を切り拓く子供の育成を目指して、全会員が心を一つに力を合わせて取り組んで参りました。

各校が抱える課題は、地域や学校の特色に応じて多様でしたが、互いに知恵を出し合い、経験を共有しながら、子供たちの健やかな成長を第一に考える姿勢を確認し合う場を数多く設けました。特に、毎月各支部で開催される区別校長研修会は着実に充実度を増し、コミュニティ・スクールの在り方、人材育成、人事評価など、学校運営に直結する重要なテーマについて活発な意見交換が行われ、大きな成果を上げることができました。さらに、地域や保護者との連携を深める取り組みも進み、学校と地域が一体となって子供を支える体制づくりに努めました。

こうした一年間の活動を通じ、校長会は「ともに学び、ともに歩む」という基本姿勢を大切にしながら、子供を中心に据えた教育の実現に向けて確かな一歩を刻むことができました。次年度もこの精神を継承し、さらに充実した取組を進め、地域とともに未来を担う子供たちの育成に努めてまいります。

(神戸市立舞子小学校長)

兵 小 長

中播磨地区だより

中播磨地区長 石川 一也

中播磨地区小学校長会は、姫路市六九校、神崎郡一校、合計八〇校で構成されています。

今年度の地区総会は兵小長総会が本地区での開催であったため、「書面総会」とし負担軽減を図りました。五月十五日には兵小長総会・研修会をアクリエひめじで西播磨地区と連携して開催することができました。

さて、姫路市では様々な課題を解決するために課題委員会を立ち上げています。今年度は陸上大会等の参加について見直しました。長年の検討課題であった林間学校についても一定の方向性を定めることができました。また、担当者会の持ち方については小規模校の負担に配慮し、開催日時の統一・工夫をしました。神崎郡においても校務支援ソフトの有効活用やサービスシステムの導入、学校行事の見直しにより一層の業務改善を進めています。

二月には播磨西教育事務所長の近都勝豊氏を講師にお迎えし、教育講演会を開催いたしました。講演会後、姫路市と神崎郡のより一層の交流を図るためにグループ協議を行い、学校経営上の課題とその解決に向けての取組について意見交流をしました。

今後も「中播磨は一つ」を合言葉に、姫路・神崎支部間の連携や情報交換等を密にして活動していきたいと思います。

(姫路市立高岡西小学校長)

西播磨地区だより

西播磨地区長 廣居 克彦

西播磨地区小学校長会は四市三町、六支部五五校で構成されています。北は水ノ山を含む山間部から南は瀬戸内海に面する豊かな自然と歴史が調和する地域です。また、一〇〇〇人を超える大規模校のある市街地域から、学校規模適正化により統廃合が進められている地域もあります。令和十年度には旧町内の小学校五校と中学校一校が小中一貫校として開校を迎える学校や、市内中学校区を小中一貫教育としている地域もあります。

そのような中、西播磨地区小学校長会では、隔月開催される幹事会において、教育的課題に対応するための工夫を話し合ったり、各地域の情報共有をしたりして、各地域の連携を深め、充実した教育活動の推進につなげていきます。また研修会では、宍粟市の「波賀元気づくりネットワーク」のみなさんに、かつて地域の山林産業を支えていた森林鉄道復活の話をお聞きました。閉鉄以来五〇年以上放置されていた鉄道を、自分たちでレールを敷き、林間に六七八mのコースを作られました。その後、乗車体験もさせていただき、貴重な経験をすることができました。地域を思う熱意にふれることができ、人口減少が進む中での地域づくりの大切さについて学ぶことができました。今後も「西播磨は一つ」を合い言葉に、これからの学校経営の充実と教育改革の推進に取り組んでいきます。

(宍粟市立山崎小学校長)

会員の声

チーム担任を生かして
笑顔あふれる学校づくり

阪神 山本 雅之

本校では、人権教育を基盤にして、保護者や地域とのつながりを大切に学校教育活動を推進しています。

学力保障として、毎日の放課後学習「かがやき教室」、不登校や教室に入りにくい児童への対応として、毎日開設しているサポートルーム「彩りルーム」を設置し、誰もが安心して過ごせる環境を整えています。図書ボランティアによる読み聞かせや、園芸ボランティアによる環境整備など、多くの地域の方々に支えられ豊かな教育環境が維持されています。

全教職員が「チーム安井」として、一人一人の児童に寄り添う指導を大切にしてきました。更なるチーム力の向上を目指し、数年前から教科担任制を取り入れ、今年度からは、全学年の教科担任制、四年生以上はチーム担任制を導入しています。各学級の担当は決めています。概ね一週間毎に担任を交代します。複数で関わることで多様な見方ができ、子供や保護者にとって安心感につながる取り組みです。今年度、児童や保護者に対してアンケートを実施しましたが、児童からは、いろいろな先生と関わるのが嬉しいという声がとても多く好評です。今後もつながる学校づくりを推進していきます。

(西宮市立安井小学校長)

会員の声

小学校でも中学校でもない
「新しい学校」をめざして

神戸 後藤 慎治

義務教育学校八多学園は、明治六年創立の八多小学校と昭和二十二年創立の八多中学校が、一つの義務教育学校として統合し、令和五年四月に開校しました。義務教育学校としては神戸市で二校目、施設一体型の義務教育学校としては神戸市初となる学校です。

本校では一年生から九年生が一つの校地で過ごすメリットを最大限に活かして、入学式や運動会などの学校行事、ハロウィン集会などの児童生徒会活動、異学年で行うペア清掃など幅広い異学年交流を行っています。それらを通じて上級生は下級生を思いやり慈しむ、下級生は上級生を憧れ目標とする「大きな家族」のような学校を目指しています。

また、八多の豊かな自然や歴史風土や課題を題材とした探求学習や、ICTを活用した海外との英語によるオンライン交流授業を行うことで、八多から世界へはばたく子どもを育てています。さらに、小中教員が共同授業をしたり、一緒に学校行事などを行ったりすることに、小中の相互理解を深め、「義務教育九か年を一体ととらえた教育」を進めています。

創立してまだ三年、スタートしたばかりの本校ですが、「小学校でも中学校でもない新しい学校」づくりを、教職員、保護者、地域が一体となつて進めています。

(神戸市立義務教育学校八多学園校長)

会員の声

播磨東 橋本 泰一

地域の支援学校として

本校は、本年度からコミュニティ・スクールに移行しました。本校は三木市全域が校区です。そこで学校運営協議会委員には、社会福祉協議会、商工会議所、手をつなぐ育成会、本校保護者から参加いただいています。コミュニティ・スクールを手段の一つとして、本校がこれまで以上に地域住民や企業、各種団体とつながり、子どもたちが将来にわたって住みよい町三木を実感できるように、少しずつ実践を積み重ねていきたいと思っています。

また、職員には、子どもたちにとって何かいいこと、何か新しいことを見つけてやってみようと伝え、実践を重ねています。障がいのある子どもたちの世界を広げるのは、関わる我々教員の大きな使命です。教員にはこれからも失敗を恐れず、子どもたちが楽しめることをコミュニティ・スクールを手段の一つとして創造して欲しいと思っています。

(三木市立三木特別支援学校校長)

会員の声

中播磨 二輪 健一

伝統ある鼓笛隊を通して

本校には、二〇二五年で六三年を迎える鼓笛隊があります。一九六二年に地元農協から道具一式を寄付していただいたのが始まりです。使用する楽器は、大太鼓・小太鼓・

シンバルなどの打楽器や、鍵盤ハーモニカ、リコーダーで、四年生から六年生が隊員です。練習は総合的な学習の時間にいき、春の運動会の入場行進の際に演奏を披露しています。前年度の三学期から練習を始め、四月からは隊形や歩き方を特訓。運動会の二週間前になると練習回数も増え、屋外での本格的な隊形練習に移ります。卒業する六年生が、バトリリーダーを中心に次年度のメンバーに伝統を受け継いでいく姿は、低学年にとって憧れの存在であり、高学年もその期待に応えようというより、スムーズに進行するよう見守りに徹します。

親や祖父が小学校時代に鼓笛を経験した家庭も多く、運動会での披露を楽しみにされています。今後も、本校の特色である「鼓笛隊」の活動を要にして、縦割り班活動や学校行事などの特別活動をより充実させ、全領域で魅力ある学校づくりに取り組んでいきます。そして、学校と家庭・地域をつなぐ伝統ある鼓笛隊を、しっかりと受け継ぎ、母校やふるさとを愛する主体性のある子どもたちを育成していきたいと思えます。

(福岡町立八千種小学校校長)

会員の声

但馬 椿本 義徳

長崎県壱岐市との交流

本校では体験活動を通し、地域の自然と歴史を学び、ふるさと愛の醸成を図るふるさと学習を進めています。今回その一つである『長崎県壱岐市立箱

崎小学校との交流』について紹介します。

壱岐市との交流は、江戸時代に校区の小山弥兵衛さんが壱岐の島に配流となったことがきっかけです。配流先で望郷の思いに耐えながら、子ども達に読み書きを教えるなど貢献した小山弥兵衛さんの生き方に心打たれた壱岐の島の方の思いが今日の朝来市と壱岐市を繋いでいます。

五年生同士がお互いの小学校・地域を訪問する交流は、地域の素晴らしさや豊かさを再発見する機会となっております。

七月は、本校五年生が、二泊三日で壱岐の島を訪問しました。箱崎小学校児童だけでなく、壱岐の方にも大歓迎され温かく迎えていただき、交流を深めました。

十月には、二泊三日で箱崎小学校五年生が朝来市を訪問しました。保護者や地域の方にも参加していただく歓迎会を行い、その後、小山弥兵衛さんの墓参りなどをするなどゆかりの地を周りました。

この取組は、たんなる箱崎小学校五年生との交流や朝来と壱岐との歴史学習だけでなく、小山弥兵衛さんと壱岐の方の思い、また、その思いを大切に繋いでこられたそれぞれの地域の方々の思いなどについても考えるいい機会になっています。

五年生だけでなく、二校の全児童が、ふるさとをさらに理解し、大切にしたという思いを強くする交流となっております。

(朝来市立東河小学校校長)

編集後記

神戸 崎川 孝一

今年度より、会報「兵小長」は年二回の発行へと変更になりました。特に今回の一六八号においては、原稿割付を大きく変更することとなり、昨年度までの広報をそのまま参考にする事ができませんでした。そのため、今号において執筆を依頼した方の多くには、原稿作成において例年以上にご苦労をおかけしたと思います。早めに心積もりをしていただこうと原稿依頼を当初の予定よりも早めるくらいの工夫しかできなかったにもかかわらず、期日を守って原稿を送付していただいた執筆者の方々に感謝申し上げます。

話は変わりますが、今年度も校長会を通じた研修では様々な学びを得ることができました。五月の兵庫県小学校長会研修会での工藤勇一氏の講演。八月の近畿小学校長会協議会研究大会兵庫大会での矢野耀大氏の講演には大きく心を揺さぶられました。特に教育とは畑違いの元阪神の矢野監督の話には感心しきりでした。監督時代に立派な成績を出せなかったことに「名選手名監督にあらず」と勝手に思い込んでいたのですが、幅広い視点から若手選手の育成に尽力されていたことに感銘を受けました。「選手の可能性を信じ切る」ピンチはチャンス「誰かのために」「感謝」など、目の前のたくさんの子ども達に向き合うあたり、すぐに実践したい視点、心がけをたくさん学ぶことができた有意義な機会でした。

(神戸市立甲緑小学校校長)